

“ふじのくに” 士民協働事業仕分け結果（事業別個表）

事業番号	24	事業名	学校対策支援活動事業費
------	----	-----	-------------

1 基本情報

実施日／班名	10月16日 第2班	時間	13:58～14:53
担当課名	警察本部 少年課	事業費	38,732 千円

2 判定結果

仕分け結果		県民評価者判定内訳(人)			
県実施 (抜本見直し)	判定区分別	行政関与不要	3		
		行政関与必要	⑫	国・市町実施	1
				県実施	⑪
	一部見直し	2			
	現行・拡充	3			
判定理由別	仕分け結果と同一区分を判定した県民評価者の主な判定理由内訳(人、複数回答有)				
	・県の役割(市町、関係団体、県民等との役割分担)を見直すべき			3	
	・事業の効率化を図りコストを縮減すべき			3	
	・効果がない(又は低い、不明確)ため、事業内容を見直すべき			2	
	・他の事業との関係を整理すべき			2	

3 具体的な見直し・改善策又はその他意見

<p><行政関与不要></p> <ul style="list-style-type: none"> 必要であるなら教育委員会で警察 OB を採用すればよい。 「地域社会の将来のため」というより、「警察の将来のため」でもあるという答えの方が気持ちよかった→「犯罪者予備軍の管理」 教育者・親をはじめとする家庭・地域住民が力を合わせ、知恵をしぼれば子どもを良い方向に導けると思います。 教育現場に警察のスクールサポーターが存在することは反対です。健全な子ども達に圧力をかけないでしようか？ すべては年月がかかっても家庭・学校・社会の子どもへの教育が大切だと考えます。 警察官の天下り先に思えます。 地域住民がスクールサポーターをするほうが良いと思います。 親の教育がおかしいのでは。学校と家庭との問題(教育委員会の仕事では?)。 世の中が幸福すぎたのも原因の一つでは。 問題児など出る学校にサポーター(カウンセラー)として教育委員会に籍を置いたほうが良いのでは。 <p><国・市町実施></p> <ul style="list-style-type: none"> 教育委員会と学校で対応し指導したらどうか。 <p><県実施(抜本見直し)></p> <ul style="list-style-type: none"> スクールサポーターという人が行うのではなく、現職の交番勤務の方や少年課の方が行うことが可能なの
--

ではないかと思います。学校の先生たちに頑張ってもらいたいと思います。スクールサポーターをもうけなくてもよいのではないかと。

- ・ スクールサポーターと警察署にかなりカブリがあるように思えます。ボランティアでも町内会の見回り等々を行うことで安心して住めますが、ボランティアでは無理なのか？お世話になりたくないスクールサポーターは必要か？
- ・ 防犯まちづくりを求めるなら、アメリカ(ニューヨーク)の落書きを消したら重犯罪が減少したという出来事を参考に、きれいな町を作る事業の方が子どもの犯罪を減らせると思う。また、夜のライトも青色にすると犯罪が減るそうです。

<県実施(一部見直し)>

- ・ 教育機関との業務のすみ分けは必要であると思う。
- ・ 教育機関に警察関係者が入ることは必要な場合もあると思うが、人件費がかさむ現状の業務のやり方は考えてほしい。
- ・ 警察署にスクールサポーターが常駐する必要性があるのか。

<県実施(現行・拡充)>

- ・ 荒れてきたら警察に任せればよいという安易な考えにならないか。学校との連携を十分に。
- ・ 学校教育は本来学校で行うべき。
- ・ 人員の配置は検討してほしい(予算的に)。
- ・ 犯罪の防止というなら当該生徒の卒業後の検証が必要。
- ・ 警察官で実施はできないのか。
- ・ 他機関に同じような制度があり、連携する必要がある。